

入学試験問題 「小論文」 (その一)

受験番号

記事の中で紹介されているような宿題についての考え方として、A論「あれば平等に勉強するので必要」、B論「やめて自主性を養う」のどちらかの立場に立って、相手を説得する意見を書きなさい。

(800字以内)

宿題って必要？

A 論 あれば平等に勉強

B 論 やめて自主性養う

■A論..あれば平等に勉強 ー塾行けない子もいるー

栃木県のAさん(40代)には、幼稚園と小学校に通う3人の息子がいます。小学生の兄弟は帰宅後、リビングでそろって宿題をするのが日課です。「近くに塾はありません。宿題がなくなったら家で何を、どれくらい学ばせればいいのか、わからなくなってしまう」と話します。

先月、4年生になったばかりの長男が帰ってきたのは、3年生で習った割り算の復習プリント。Aさんの目には簡単な問題と映りましたが、割り切れずに出てくる「余り」の処理が難しかったようで、間違いもありました。Aさんは「先生が学習の進度に合った課題を選んでくれているのだなと感じました」と、宿題に肯定的です。

学校のカリキュラムを定めた小学校向けの「学習指導要領」には、「家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮する」という記載がありますが、「宿題」という言葉はありません。中学校向けでも同様です。宿題を出す出さないは、実は学校の判断に委ねられています。

宿題を巡っては、四国の議会で議論になったこともあります。昨年8月、高松市議会に「宿題の原則廃止」を求める陳情が提出されました。「学校は子どもに宿題を半強制的に課している」との主張でしたが、賛成は市議40人中一人にとどまり、不採択となりました。市教育委員会は「学習習慣を作る」といった面で宿題は有効だとしています。

当の子どもたちは、どう受け止めているのでしょうか。児童の居場所として放課後に教室を開放している埼玉県新座市の小学校で話を聞きました。「面倒くさいけど、将来の役に立つ。算数の問題がすらすら解けるようになった時はうれしかった」「宿題がないとYouTubeを見たり、ゲームをしたりしてしまう」。5年生の男児2人からは、そんな声が聞こえてきました。

教員たちの多くも宿題を支持します。ベネッセ教育総合研究所(東京)の2023年調査では、毎日宿題を出す小学校教員の割合は94.6%でした。横浜市を経て、現在は名古屋の市立小学校に勤める教諭のBさん(20代)は「子どもに学習内容を定着させるには、何回も反復させることが大事。家庭でその機会を作る宿題の役割は大きい」と語ります。

Bさんは、学校以外に塾や通信教育で勉強させる家庭もあれば、その余裕や環境にない家庭もある現実を見えました。だからこそ、「宿題は、全員に平等に勉強させることができます。生きていくのに不可欠な学力を下支えする面もあるのです」と強調します。

■B論..やめて自主性養う ー興味・関心掘り下げー

東京都内のある小学校は、全学年で毎日の宿題を「原則なし」としました。

昨年春からのことで、夏休みの風物詩といえる読書感想文や自由研究なども一律には求めています。校長のCさん(50代)は「児童それぞれの学習の進み度合いを踏まえ、単に計算ドリルや漢字練習を一律に課すことに疑問を感じていました。児童自身が『自分に必要なことだ』と思えない宿題では、効果は得られません」と言い切ります。

入学試験問題 「小論文」 (その二)

宿題はないですが、この小学校では「自学ノート」という取り組みを行っています。児童が自分でテーマを考えて調べたことをまとめ、先生に見せるのです。4年生を教える主任教諭のDさん(40代)は「社会の授業をきっかけに中東情勢に興味を持ち、新聞記事を切り抜いて感想を書いた児童がいました。宿題はなくても、積極的に取り組む子どもは多いと感じます」と手応えを口にします。

こうした学校はいま、各地で増えています。長崎市立長崎中学校は2022年度から一律の宿題をやめ、生徒本人が決めた内容で家庭学習に取り組んでいます。山形県新庄市や岐阜市でも自主学習に転換する動きがあります。

前述の都内の小学校に5年生の長女を通わせるEさん(40代)は、宿題がないことを好意的に受け止めています。長女は帰宅するとすぐ、「友だちと遊んで来るね」と家を飛び出す毎日ですが、「中学校に入れば部活動があり、大人になれば仕事がある。自由に遊べる時間は貴重」と見守ってきました。

そんな長女が先月、「長い国名」ランキングをつくり、自学ノートにまとめて先生に提出しました。Eさんは「宿題がないことが、興味を持ったことを掘り下げたり、遊びの中にも勉強の芽があることに気づいたりする良いきっかけにもなっています」と話します。

過去にも「宿題廃止」の議論がありました。1960年代には教科書やノートを学校に置いて帰る「ランドセル通学廃止」が話題となり、宿題もなくす学校が出てきたのです。

現在の宿題を見直す動きは、長時間勤務にあえぐ教員の負担軽減につながるという期待感もあります。クラスを中心に大人数を指導する教員にとって、宿題の確認や評価は負担の一つにもなっているからです。

文部科学省は「働き方改革事例集」の中で、宿題の見直しを挙げています。自主的な家庭学習の取り組みを中心にする一方で、教員の勤務時間は「1日20分」「年66・7時間」削減されるとしています。

読売新聞・朝刊 2024年5月17日(金)

※個人情報保護のため、氏名・年齢・所属などについて一部改変しています。

注意 (1) 字数は所定の原稿用紙二枚以内。時間は60分。

(2) この紙の余白はメモ用紙として自由に使用してよいが、終わったら

机の上に原稿用紙(小論文)と一緒に置いて、持ち帰らないこと。